

グループホームひまわり 地域連携推進会議 報告

令和7年9月20日(土)、GH 入居者・ご家族・地域の各代表と法人関係者が集まり、「地域連携推進会議」を開催しました。

障害のある人たちの暮らしを地域とともに支え、またグループホームの運営や経営を健全化していくため、現状報告や意見交換を行いました。

1. 会議目的の確認

- ・ 入居者と地域住民との関係づくり
- ・ 障害や施設への理解促進
- ・ 運営の透明性の確保と支援の質向上
- ・ 入居者の権利擁護(虐待防止)

2. グループホームの現状報告

管理者・職員から以下について報告しました。

- ・ 入居者の人数と生活の様子
- ・ 職員体制と支援方針、生活上の工夫
- ・ 危機管理・虐待防止研修の取り組み
- ・ 月1回の「仲間の声を聴く会」の実施状況

3. 意見交換の主な内容

(1)現状報告を受けて ⇒ 暮らしの自由さについて

- ・ 【構成員】「生活の場であるなら、もっと自由さがあつていいのでは。お風呂や洗濯のタイミングも自分で選びたい。もし自分が住むならどんな暮らしがしたいかという視点が大事」
- ・ 【法人】「個々の希望を尊重しているが、集団生活の中で画一的になりやすい面もある。今後も工夫を重ねていきたい」

(2)現状報告を受けて ⇒ 相談しやすい仕組み

- ・ 【構成員】「男性管理者には言いづらいこともあるのでは」
- ・ 【法人】「同性職員への相談の場など、安心して不満や不安が表明できる仕組みを検討したい」

(3)入居者・家族の声

- ・ 【入居者】「仲間だけで外出するのが楽しい。みんなで外食や花火をもっと楽しみたい」
- ・ 【家族】「親亡き後の暮らしに不安がある。地域との関係づくりの大切さを改めて感じている」

(4)地域住民・自治会からの声

- ・ 「当地域には障害者施設が集中しており新設には反対の声もある」
- ・ 「清掃活動だけでなく、防災活動にも参加してもらったらどうか」
- ・ 「過去には騒音の苦情もあったが、最近は落ち着いている」
- ・ 「GHのごみ出しの扱いについて、自治会から行政に働きかける余地がある」

4. 参加者の感想

- ・ 「普段は建物の前を通るだけだったが、中の様子が分かって安心した」
- ・ 「今回を機に入居者の方ともっと挨拶や交流を深めたい」
- ・ 「困ったときは遠慮なく地域に頼ってほしい」
- ・ 「花火のときはぜひ声をかけて一緒に参加したい」
- ・ 「障害理解は時間の積み重ねで深まっていくものだと感じた」

5. まとめと今後の課題

- ・ 一人ひとりの「その人らしい暮らし」をさらに追求する
- ・ 入居者が不安や不満を安心して伝えられる仕組みを整える
- ・ 地域との日常の小さな交流を積み重ね、つながりを強める

- 年内にグループホーム訪問を実施予定(短時間見学と別日内覧を計画)
-

6. 閉会にあたり

地域の皆さんと意見を交わすことで、相互理解や支え合いの関係づくりが進んでいく手ごたえを得ました。障害のある人たちの「親亡き後の不安」は誰もが直面する「老いと孤立」の問題であり、法人として今後も引き続き地域福祉に貢献できるよう取り組みを続けてまいります。

日時 令和7年9月20日（土） 10:00～11:30

会場 GH すまいる

参加 入居者代表1名 入居者家族代表1名 地域代表2名 法人代表4名

資料 『GHひまわり概要』『世話人の支援の手引き』『障害者虐待防止パンフレット』

追記

GHひまわり見学会

日時 2025年12月18日（月） 18時30分～19時30分

参加 地域代表2名 法人代表2名

内容 地域構成員の方が2名、GHひまわりの見学と入居者との交流を行った。

帰宅後すぐは夕食の準備や入浴などで、ゆっくり交流したり GH内を見学してもらえないという現場からの希望があり遅くからの時間帯での見学となった。

前半にご挨拶と自己紹介をし、普段の様子やGHの暮らしについての質疑応答があった。

地域の方が見学に来られるのを、みんな楽しみにしており、2名の入居者が自室を案内してくれた。それぞれ個性あふれる部屋の様子に驚きと、ひとり一人が自由に自分らしい暮らしを実現していることに認識を改めたとの感想があった。何よりも入居者の皆さんのが穏やかに笑顔で過ごしている様子を知ってもらえ、外からではわからないGHの生活の理解につながった。